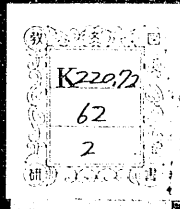


中學新習字帖

日高秩父書

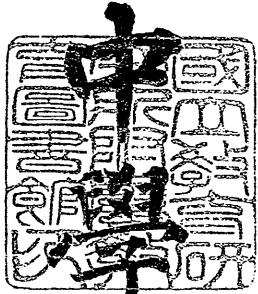
二



K220.72

62

2



新習字帖

二

父母在不遠

中二

遊必有方

蕩搖水中月

水定光復圓

務類賴治治沿

免免哀衰術球

士志於道而耻惡衣

中
四

惡食者未足與議也

海行かば水漬く屍
山ゆかば草蒸す屍

中三五

大君の邊にこそ死なぬ
のどには死なじ

習字ハ行書ヲ主トシ楷
書草書ヲモ交ヘ以テ大

字細字ヲ練習セシメ
又假名ヲ併セ課スベシ

長風破浪一帆還
碧海遙迴赤馬關

三十六灘行欲盡
天邊初見鎮西山

萬里人南去

中
二
八

三春雁水飛

春風ヲ以テ人ニ接シ

秋霜ヲ以テ自ラ肅ム

殿樣先生函丈硯北
親展平信侍史至急

中三子

沛年玉御歲暮見舞
香奠靈前薄儀寸志

心不在念視不見聽

中子

而不知念為不知其味

付帯として業道に急まむ付學問
宗理の外世俗を用の長途は因縁
正しく執事と雖も善悪の別あり

なぐはまのからすのさか
難端の子
於ては縁の善悪を以てりか
居ひてん

未五月

篤胤

物利祭發段假快映

幼幻冠寇降蜂導導

白鷺鳥の立てる洲邊蘆
花雪を吹く夕陽春来て
柳影長ま堤上行き

かふ人無し巨解步這ひ
出て、泡を吐きつ、教を
擧げて空を挿む

驛長勿驚時變改

一榮一落是春秋

假にも愚を學ぶべからず狂人のまね
とて大路をはしれば則ち狂人
なり悪人のまねと人をこらせば

悪人なり驥をまなぶは驥のたぐひ
舜をまなぶは舜の徳なり偽り
ても賢をまなば人を賢といふべし

背燭共憐深夜月
踏花同情少年春

背燭共憐深夜月
踏花同情少年春

何れも武士道と云ふ武士道は
之より何れも一種の宗教其の
基礎となりて後儒教と稱し

此れに交り以上三種の融合調
和によりて發せしむるものにて吾人の
國に一種の特色ある者物と云ふべし

謙信又詩歌ヲ善クセリ天正二年
能登七尾ノ城ヲ攻メ落シ折節
九月十三夜ニ宿レバトテ詩歌會ヲ
陣中ニ開キ又賦シテ曰ク

霜滿軍營秋氣清數行
過雁月三更越山并得能州
景遮莫家鄉憶遠征

よき事あれば福事の
いづれかの世の末とありを

中三平

遠くはかりて近く見よ
月に村をむら風

15220.7

明治壬子夏日書

高橋文



宮田六左衛門刺中二終

大正元年十月二十五日印刷
大正元年十月二十八日發行

不許複製

中學新習字帖
三册各金拾八錢

發賣所

東京市日本橋區
本町三丁目
振替貯金口座
東京八八一五

金港堂書籍株式會社

筆者	日高秩父
編輯兼 發行者	金港堂書籍株式會社 <small>東京市日本橋區本町三丁目十七番地</small>
代表者	原亮一・郎
印刷者	中野鐺太郎 <small>東京市本橋區小田原町三丁目九番地</small>

